学校教育目標
明るく
素直に
礼儀正しく

海老名市立杉本小学校

学　校　便　り

令和８年１０月５日
校長　　奥泉　憲

竹内さんをお招きして

９月３０日の１校時、５年生が竹内さんをお招きして総合的な学習の授業を行いました。私も参観させてもらいました。授業のテーマは「どうして竹内さんは５年生の稲作の手伝をしてくれるのだろうか」。授業のはじめに、１学期の代掻き、田植え等の活動を振り返り、そのあとで、子どもからの稲作に関する質問について竹内さんの思いを聞かせてもらいました。以下、授業の様子を少しだけ紹介します。

『竹内さんでも稲作で失敗してしまったことはありますか。』
「今、杉本小の田んぼでも倒れてしまっている稲もあるし、米作りは、自然相手なので、自分も失敗ばかりしています。でも、失敗から学んだことは忘れないので、次の機会に生かすようにしています。」

『稲作をやり続けているのはどうしてですか。』
「自分の親の代から受け継いだ農業をこれからも繋いでいきたいという気持ちが大きいです。私は、自分の田んぼも杉本小の田んぼも同じ気持ちでかかわっています。杉本小の田んぼの世話をしていて、自分の田んぼの作業にも生かされていることもたくさんあります。そして、杉本小の５年生の皆さんに会い稲作のことを話すと、私も稲作をがんばらなくっちゃと思います。」

『稲作に取り組んでいての喜びは何ですか。』
「やはり苦労した分、お米が収穫できたときの喜びが大きいです。これから杉本小の田んぼから美味しいもち米を収穫することがとても楽しみです。」

『米作りを通して、どんな生き物でも大切にすると言われていましたが、どうしてですか。』
「どんな生き物でも自然の生態系の中では、みんなつながっていると自分は思っているので、たとえ稲作には不向きな生き物であっても大切にしなくてはいけないと思っています。」

『私たち５年生に稲作を通してどんなことを感じてほしいですか。』
「将来、皆さんが、農業にかかわるようなことがなくても、お米づくりに関心を持ってもらえるだけでうれしいです。そして、給食で食材を残してしまう時でも、食への感謝の気持ちを忘れないでほしいです。」

これまで、竹内さんのご指導のもと取り組んできた５年生の稲作活動。いよいよ１０月２３日が稲刈りです。今回の授業で聞かせていただいた竹内さんの思いもしっかりと受け止めながら収穫の喜びをみんなで味わってほしいと思っています。　学校長　奥泉　憲

